



スマートライセンスサービスおよび Smart Call Home サービスの設定

- [Cisco ISE スマート ライセンス \(1 ページ\)](#)
- [Smart Call Home \(6 ページ\)](#)

Cisco ISE スマート ライセンス

シスコは、別々のライセンスを個別にインポートするのではなく、単一のトークン登録で ISE ソフトウェア ライセンスとエンドポイント ライセンスの消費を簡単かつ効率的にモニタできるようにする、スマートライセンスを提供しています。購入したシスコ製品とライセンスの詳細は Cisco Smart Software Manager (CSSM) と呼ばれる集中型データベースに保持され、ここからどのエンドポイント ライセンスが使用できるかと、消費の統計情報を簡単に追跡できます。

スマートライセンス トークンが ISE からアクティベートされ登録されている場合、製品ライセンスごとの各エンドポイントセッションによるライセンスの消費をモニタします。スマートライセンスは、ISE のシンプルな表レイアウトからエンドポイントセッションによるライセンスの消費について管理者に通知します。スマートライセンスは、有効な各ライセンスのピーク使用量を集中型データベースに毎日レポートします。ライセンスが使用できる状態で消費されていない場合、使用可能なライセンスについて管理者に通知され、使用量のモニタを継続できます。消費量が使用可能なライセンスの数を超えると、アラームが起動し、アラームと通知によって管理者に通知されます。

スマートライセンスでは、Base、Plus、Apex、TACACS などの、シスコのスマートアカウントを介して含まれているさまざまなライセンス権限を管理することもできます。ISE から、ライセンス権限ごとの基本的な消費統計情報をモニタできます。CSSM アカウントから、追加情報、統計情報、通知を表示することや、アカウントおよび権限に変更を加えることができます。



(注) Cisco スマート ソフトウェア マネージャ サテライトはサポートされていません。

ISE はライセンス消費の内部サンプルを 30 分ごとに取得し、コンプライアンスと消費がそれに
 応じて更新されます。[更新 (Refresh)] をクリックするだけで ISE の [ライセンス (Licenses)]
 テーブルにこの情報が表示されます。毎日午前 1:00 に、ISE は [ライセンス (Licenses)] テー
 ブルに同様に表示される [昨日のピーク数 (Yesterday's Peak Count)] データに基づき、有効な
 各ライセンスについて日々のピーク数を CSSM サーバにレポートします。ISE は、毎日の同期
 中に自動的に再承認される CSSM 証明書のローカル コピーを保存することで CSSM サーバと
 通信し、ユーザが [ライセンス (Licenses)] テーブルを手動で更新したときにも通信します。
 通常、証明書の有効期間は 6 ヶ月です。CSSM サーバと同期したときにコンプライアンスが変
 更された場合、[ライセンス (Licenses)] テーブルの [最後の認証 (Last Authorization)] 列がそ
 れに応じて更新されます。また、権限がコンプライアンスを満たさなくなった場合には、コン
 プライアンス外となっている日数が [コンプライアンス外の日数 (Days Out of Compliancy)] 列
 に表示されます。コンプライアンス違反は、[ライセンス (Licensing)] エリアの上部にある
 [通知 (Notifications)] と、[ライセンス警告 (License Warning)] リンクにある ISE ツールバー
 にも示されます。通知に加えて、アラームも確認できます。詳細については、[Cisco ISE アラーム](#)
 を参照してください。



(注) TACACS ライセンスは ISE が CSSM サーバと通信したときに承認されますが、セッションベ
 ースではないため、[ライセンス (Licenses)] テーブルで消費数は関連付けられません。

図 1: [ライセンス (Licenses)] テーブル

License	Status	Compliance	Yesterday's Peak Count	Consumption Count*	Days Out of Complian...	Last Authorization
Base	Enabled	Released Entitlement	0	0	-	-
Plus	Enabled	Released Entitlement	0	0	-	-
Apex	Enabled	Released Entitlement	0	0	-	-
Tacacs	Enabled	In Compliance	Uncounted	Uncounted	-	May 19, 2016 5:25:55 PM

*Consumption Count Updated May 19, 2016 17:00:00 IST

ISE でのスマートライセンスの有効化および登録

始める前に

スマートライセンスを有効化してから、CSSM アカウントを介してシスコ担当者によって発行
 されたトークンを使用して ISE から登録します。

Cisco Smart Software Manager (CSSM) アカウントで必要な ISE の権限があることを確認しま
 す。詳細については、<https://software.cisco.com/> を参照するか、シスコ担当者にお問い合わせく
 ださい。

ISE-PIC からアップグレードする場合は、この手順でスマートライセンスを有効化する前に、
 まず ISE アップグレードライセンスをインストールしてから次の作業を行う必要があります。

- ISE Base ライセンスをインストールする。
- または、既存の ISE 展開に PIC インストールを移動する。
 1. 既存の ISE 展開から、ISE ノードを追加します。

2. 既存の ISE 管理ノードからセッションプロファイリングと pxGrid サービスを有効にします。



(注) ISE ノードの追加と設定の詳細については、[Cisco ISE ノードの設定](#)を参照してください。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] の順に選択して、ISE の [ライセンス (Licensing)] エリアにアクセスします。

ISE ボックスをインストールまたはアップグレードした後、スマートライセンスを有効化する前に、ISE の [ライセンス (Licensing)] エリアに入ると、デフォルトで従来のライセンスが使用され、[ライセンス方式 (Licensing Method)] エリアの画面上部に表示されます。

図 2: 従来のライセンス

Licensing Method ⓘ

✓ Traditional Licensing is currently in use.

Click below to switch to Cisco Smart Licensing ⓘ

▶ Cisco Smart Licensing

ステップ 2 [ライセンス方式 (Licensing Method)] エリアの [Cisco Smart Licensing] リンクをクリックして [スマートライセンス (Smart Licensing)] に切り替えます。

接続方式フィールドを持つ [Cisco Smart Licensing] エリアが展開します。

図 3: スマートライセンスの接続方式の詳細

Specify the method to use to connect to Cisco Smart Software Manager and then click Enable to get Started.

Connection Method Direct Https

Optional Secondary administration node for high availability.

Secondary UDI

ⓘ Cisco cloud server information

Enable

Cancel

ステップ 3 [Cisco Smart Licensing] エリアの [セカンダリ UDI (Secondary UDI)] フィールドで、少なくとも 1 つの追加 ISE ボックスがネットワークで設定されている場合は、プライマリ ノードが使用できない場合に使用されるセカンダリ ノードを入力します。ISE ボックスから CSSM に接続するために使用される接続方式を [接

続方式 (Connection Method)] ドロップダウンリストから選択し、[有効化 (Enable)] をクリックします。
[接続方式 (Connection Method)] については、次のように選択します。

- a) インターネットに到達するために設定された直接接続がある場合には、[直接 HTTPS (Direct HTTPS)] を選択します。
- b) 直接接続がなく、プロキシ経由で接続する必要がある場合には、[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)] を選択します。
- c) [トランスポートゲートウェイ (Transport Gateway)] は、推奨される接続方式です。スマートライセンスを使用する場合、Smart Call Home (SCH) サービスも自動的に有効になり、Transport Gateway を設定できるようになります。接続方式として Transport Gateway を設定するには、まず管理ワークセンターの Smart Call Home 設定から設定する必要があります。これを行う方法と SCH および Transport Gateway に関する詳細については、[Smart Call Home \(6 ページ\)](#) を参照してください。

(注) スマートライセンスを有効にすると、すべてのライセンスが有効になる、90 日間の評価期間になります。この間に、スマートライセンスとすべての ISE 機能を試すことができます。ISE の使用を継続するには、次の手順に進んで評価期間が終了する前に有効なトークンを使用してスマートライセンスに登録する必要があります。

このエリアのフィールドはダイナミックです。接続の詳細を入力し、[有効化 (Enable)] をクリックすると、エリアが折りたたまれます。エリアを再度展開すると、今度は [Cisco Smart Licensing の登録 (Cisco Smart Licensing Registration)] が呼び出され、スマートライセンス トークンの詳細を入力することができます。

ステップ 4 ISE の [Cisco Smart Licensing の登録 (Cisco Smart Licensing Registration)] エリアから、スマートライセンス トークンを購入したときに受け取った [登録トークン (Registration Token)] を入力し、[登録 (Register)] をクリックします。CSSM アカountの ISE エリアに移動して [コピー (Copy)] をクリックすることで、いつでもトークンを取得できます。

また、チェックマークを外すことで、スマートライセンス トークンに含まれている任意のライセンスを無効にすることができます。ライセンスを無効にすると、スマートライセンス機能の一部として自動的に有効性がチェックされなくなります。

ISE のスマート ライセンスの管理

スマートライセンス トークンをアクティブ化して登録すると、ISE のライセンス権限を次の方法で管理することができます。

- ライセンス権限資格証明書の有効化、無効化、および更新。
- スマート ライセンスの登録の更新。
- 準拠および非準拠ライセンスの問題の特定。

始める前に

スマート ライセンス トークンをアクティブ化して登録していることを確認します。詳細については、[ISE でのスマート ライセンスの有効化および登録 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 1** スマートライセンスを最初に起動すると、すべてのライセンス権限は評価期間の一部として自動的に有効になります。トークンを登録すると、CSSM アカウントに特定の権限が含まれず、登録時にそれらを無効にしていなかった場合は、非準拠通知が ISE に表示されます。それらの権限を CSSM アカウントに追加し（サポートが必要な場合は、Cisco アカウント担当者にお問い合わせください）、[ライセンス (Licenses)] テーブルから[更新 (Refresh)] をクリックし、非準拠通知を削除して、関連機能を使い続けます。承認を更新したら、ログアウトして、関連する削除する非準拠メッセージのために ISE に再度ログインします。
- ステップ 2** 毎日の自動承認が何らかの理由で成功しないと、非準拠メッセージが表示されることがあります。[更新 (Refresh)] をクリックして権限を再承認します。承認を更新したら、ログアウトして、関連する削除する非準拠メッセージのために ISE に再度ログインします。
- ステップ 3** スマートライセンスを最初に起動すると、すべてのライセンス権限は評価期間の一部として自動的に有効になります。トークンを登録すると、CSSM アカウントに特定の権限が含まれず、登録時にそれらを無効にしていなかった場合は、不必要な非準拠通知を回避するために、ISE のスマート ライセンスからそれらの権限を無効のままにすることができます。[ライセンス (Licenses)] テーブルから、トークンに含まれていないライセンス権限にチェックマークを付け、ツールバーから[無効 (Disabled)] をクリックします。ライセンス権限を無効にした後、ログアウトし、メニューから削除する関連機能および削除する非準拠メッセージのために ISE に再度ログインします。
- ステップ 4** アカウントに権限を追加したら、それらの権限を有効にします。[ライセンス (Licenses)] テーブルから、必要な無効化されたライセンスにチェックマークを付け、ツールバーから[有効 (Enable)] をクリックします。
- ステップ 5** まず 1 UDI だけのスマートライセンスを設定し、セカンダリ UDI を入力しない場合、後で情報を更新できます。[Cisco スマート ライセンス登録の詳細 (Cisco Smart Licensing Registration Details)] リンクをクリックして、エリアを開きます。トークンを再入力し、新しいセカンダリ UDI を入力して、[更新 (Update)] をクリックします。
- ステップ 6** 登録証明書は自動的に 6 ヶ月ごとに更新されます。手動でスマート ライセンス証明書登録を更新するには、[Cisco Smart Licensing] 領域の上部から[登録の更新 (Renew Registration)] をクリックします。
- ステップ 7** ISE ボックス登録 (UDI により示されます) をスマート アカウントから削除するが、評価期間の終了までスマートライセンスを引き続き使用するには、[Cisco Smart Licensing] 領域の上部から[登録解除 (Deregister)] をクリックします。たとえば、登録プロセスの一環として示した UDI を変更する必要がある場合に、これを行うことができます。まだ評価期間の残りの時間があれば、ISE はスマート ライセンスのままです。評価期間の残りの時間がない場合、ブラウザが更新されたときに通知が表示されます。登録解除したら、同一または別の UDI で登録するために登録プロセスを再度実行できます。スマートライセンスをアクティブにし、登録する方法の詳細については、[ISE でのスマート ライセンスの有効化および登録 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 8** ISE ボックス登録 (UDI により示されます) をスマート アカウントから完全に削除し、従来のライセンスに戻すには、[Cisco Smart Licensing] 領域の上部から[無効 (Disabled)] をクリックします。たとえば、登録プロセスの一環として示した UDI を変更する必要がある場合に、これを行うことができます。無効にしたら、同一または別の UDI でアクティブ化および登録するために登録プロセスを再度実行できます。スマートライセンスをアクティブにし、登録する方法の詳細については、[ISE でのスマート ライセンスの有効化および登録 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

Smart Call Home

Smart Call Home (SCH) 機能は、Smart Call Home ポータルで設定されている場合、ネットワーク内の Cisco ISE デバイスを監視し、重大なイベントに関して電子メールで知らせます。また、検出した問題への修復アドバイスを含むリアルタイムのアラートを提供します。SCH は環境の問題を監視し、イベント通知を送信します。

Cisco ISE のスマート ライセンスをアクティブにすると、SCH の機能はデフォルトで有効になります。それ以外の場合で、SCH を有効にするには、SCH サービス用に Cisco ISE を登録する必要があります。SCH 機能を有効にする方法の詳細については、[Smart Call Home サービスの登録 \(7 ページ\)](#) を参照してください。スマート ライセンスを有効にするか、SCH サービスを登録すると、次のいずれかを選択することができます。

- 匿名レポートのみを有効にします。SCH の匿名レポート機能は、ネットワーク内の Cisco ISE デバイスの最小限の状態に関する情報を提供します。
- SCH が提供するすべての機能セットを有効にします。

SCH 機能の有効化については、[Smart Call Home サービスの登録 \(7 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco ISE は、サテライトまたは Transport Gateway をサポートしています。組織のセキュリティポリシーがネットワークの ISE サーバと SCH サーバ間の通信を許可しない場合、SCH 通信のプロキシとして機能するオプションの Transport Gateway を使用できます。Transport Gateway ソフトウェアは Cisco.com からダウンロードでき、Linux サーバにインストールして維持することができます。RHEL サーバでの Transport Gateway ソフトウェアの導入方法については、『[Smart Call Home Deployment Guide](#)』を参照してください。

Smart Call Home プロファイル

Smart Call Home プロファイルは、デバイスでモニタされるイベントのタイプを決定します。Cisco ISE には、次のデフォルト プロファイルがあります。

- ciscotac-1 : 匿名レポートのために使用されます
- isesch-1 : Smart Call Home 機能のために使用されます

匿名レポートのために使用されるデフォルト プロファイル (ciscotac-1) を編集することはできません。

Anonymous Reporting

Cisco ISE は、ユーザの展開、ネットワーク アクセス デバイス、プロファイラ、およびその他に使用しているサービスに関する非機密情報を安全に収集します。このデータは、Cisco ISE の使用状況をより詳しく把握し、製品と製品が提供するさまざまなサービスを向上させる目的で収集されます。

デフォルトでは、anonymous reporting は有効になっています。anonymous reporting を使用不可にするには、ISE 管理者ポータル ([管理 (Administration)] > [システム (System)] > [設定 (Settings)] > [Smart Call Home]) で行うことができます。

Smart Call Home サービスの登録



(注) Cisco ISE のスマート ライセンスを有効にしている場合、Smart Call Home (SCH) サービスに登録する必要はありません。スマート ライセンスにより、SCH 機能はデフォルトで有効になっています。[Smart Call Home] ページの登録ステータスはアクティブになっています。匿名レポートのみを有効にすることや、SCH が提供する機能一式を有効にすることができます。

スマート ライセンスを使用せずに SCH サービスを有効にするには、まず SCH サービス用に Cisco ISE を登録する必要があります。これは、スタンドアロン ノードまたはプライマリ管理 ノードからのみ行うことができます。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [設定 (Settings)] > [Smart Call Home] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- SCH のすべての機能をオンにする (Turn on full SCH capability)
- デフォルト SCH テレメトリ設定を保持して匿名データのみを送信する (Keep the default SCH telemetry settings and send only anonymous data)
- すべて無効にする (Disable everything)

ステップ 3 ([SCH のすべての機能をオンにする (Turn on full SCH capability)] オプションを選択した場合のみ) [登録ステータス (Registration Status)] エリアに電子メールアドレスを入力します。

ステップ 4 (オプション) [Transport Gateway] チェックボックスをオンにして、Transport Gateway の URL を入力します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

SCH のすべての機能を有効にしている場合は、アクティベーションリンクが記載された電子メールを受信します。アクティベーションリンクをクリックして記載されている指示に従い、登録を完了します。

